

# KOBE YMCA

## NEWS



神戸青年

No.630

2014.5・6

May・Jun

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7  
 THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治  
 神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15  
 TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479  
 URL <http://www.kobeymca.org> 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA  
年間聖句

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。  
 どんなことにも感謝しなさい。  
 (テサロニケ信徒への手紙 一 5:16~18)

## 北須磨文化センター

神戸市立北須磨文化センターを神戸YMCA、神戸市スポーツ教育協会、アシックスの共同企画により、2014年4月から4年間、管理・運営することになりました。

北須磨文化センターは「市民の文化の向上、福祉の増進および余暇の活用を図るとともに、市民相互の交流および地域活動の振興に資する」という目的に設置され、北須磨地区で約30年にわたり地域の施設として活用され地域のシンボルになっています。

公園の施設である北須磨文化センターの管理・運営にあたって、市民の誰もが主体的に活動ができ、地域交流が図れる施設環境の整備や、市民活動の活性化が図れるよう多様な講座やイベントなどの提供とともに、地域との協働イベントの開催などを通じた地域コミュニティの形成や地域振興に貢献していくことを基本理念としています。

方針として①活動支援や交流を促進する多彩な機会・場の提供、②地域交流を支援する地域活動事業、③利用者に親しまれる安全・安心で快適な施設づくりの基本に沿った利用者本位の管理・運営を通じ、市民の活動や地域交流の活性化、地域コミュニティづくりや公園の活性化などを図ることで、幅広い年代の人たちの活動の中心となる施設づくりを進めるとともに、地域振興にも貢献していきます。

YMCAとしては、施設内において、プールでのスイミングスクールの実施、体育館での体育が得意になる教室などの実施や、施設外での安全講習会（AED・CPR、熱中症など）や総合型地域スポーツクラブ支援など多くの活動支援や地域コミュニティづくりを推進し、ファミリーウエルネスの実現のために活動していきます。

### 神戸市小規模保育事業

## YMCAちとせ保育ルーム 開設

小規模保育事業とは、待機児童解消策の一環として行なわれる事業で、3歳未満児を対象とした少人数（定員は9~19名）の保育事業です。この春市内37ヶ所で開設されることとなり、「学校法人 神戸YMCA学園」もその一端を担うべく、西区学園西町に4月1日より「神戸市小規模保育事業 YMCAちとせ保育ルーム」を開設致しました。近い将来、幼保一体化が進められていきますが、その実現に向けて、保育園と幼稚園を合わせもつ神戸YMCAが大いに期待されていると共に、その使命が与えられているのだと実感しています。

YMCAちとせ保育ルームの開設に当たっては、「神戸YMCAちとせ幼稚園」が連携園として園児の交流や行事参加をはじめ3歳からの就園希望者の受け入れ等の支援をし、社会福祉法人神戸YMCA福祉会による「YMCA保育園」「西神戸YMCA保育園」にも連携園として、保育に関する相談・指導者の支援、食事の調理・搬入等の支援、施設や園庭の利用等の支援をいただきます。

1月より急ピッチで保育室の内装工事が行われ多くの方のお支えとご協力により、無事に予定通りオープンすることができました。心より感謝申し上げます。神様の見守りのもと、お預かりした1~2歳児一人ひとりの命が輝くように、職員一同心を尽くして保育して参りたいと思います。

YMCAちとせ保育ルームは、学園都市駅より少し西側の山麓バイパス沿いにあります。日当たりがよくてとても明るい、広々とした保育ルームです。お近くにお寄りの際は、ぜひお立ち寄りください。（写真は、4月1日の親子登園の様子です。）



## 定期総会 公示

日場議 時：2014年5月30日（金）18:30～  
 所：神戸YMCAチャペル  
 事：1. 2013年度事業報告の件  
 2. 2014年度方針及び事業計画の件

報告表彰：1. ボランティア奨励賞  
 2. ユースボランティア紹介

## 創立記念日礼拝 (128周年記念礼拝)

1886（明治19）年に発会してから128年を迎�니다。

記念礼拝を通して、創立当時の指導者の志にあらためて思いをいたし、未来に向かって私たちの志を確認したいと願っています。どなたでも自由にご参加ください。

日 時：5月8日（木）18:30～20:30

場 所：神戸YMCAチャペル

メッセージ：

「YMCAからの賜物～11年を振り返って～」  
 武田寿子氏

（前神戸キリスト教青年会会长、前公益財团法人神戸YMCA理事長）

なにこれ?」と思つたのはもう20年ほど前。私の視線の先には、黒人の子どもたちが載つたポスター。おそらく募金の呼びかけか今考えると海外支援事業の一環だったのかも知れません。当時6歳だった私は、神戸YMCAにこんなポスター貼つてあるんやろ? と幼いなりの単純な「?」を抱いた記憶が今でも鮮明に残っています。私がYMCAnのつながりは、かれこれ22年ほどになりますが、始まりはキャンプ（バービー）という名前だけ覚えています）とスイミングでした。

私が見たポスターの「?」が解決されたように思います。

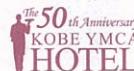
学YではYMCAの意味や活動そのものを学ぶ機会が多くありましたので、私が「おかげいごこと」と捉えていたYMCAに対する印象は一気に世界規模に拡かりました。学Yは、大学（専門学校や寮などもあります）によって活動内容が異なるところもありますが、勉強会や国内外プログラム、聖書研究などはそれぞれの枠を越えて参加し合うたまります。そのような時間は、物事に対して「?」を抱くことを恐れない。それはむしろ良い方向に変えていくために必要不可欠なことだと私に教えてくれたよな気がします。

「?」を共有し考え「!」に変えていくこと。子どもには子どもの、ユースにはユースの、シニアにはシニアのそれぞれの「?」があります。それは身近にあること、また国を越えるようなこと、どんなことでも良いと思いません。一つの「?」を共有し考え、複数の「!」が生まれると可能性や解決策が広がったり、小さな「?」は時に大きな「?」につながることもあるかもしれません。

私がかつて見たポスターも、たくさんのが通しているのは「YMCA」です。そして、これからもできる限り関わり続けていきたい、今はそう思える場所もあります。

最後に、あなたなら「?」と「!」をどちら言葉に置き換えますか?:?

## ホテル学科50周年に寄せて⑤



神戸YMCA学院専門学校ホテル学科は、日本ホテル協会兵庫県支部（当時）から依頼を受けて、神戸YMCA国際ホテル学校として、東京オリンピックの年、1964年に開校しました。今年、2014年には開設50周年をむかえます。

この50年間、多くの人材をホスピタリティ業界に輩出し、今では神戸YMCA学院専門学校ホテル学科出身の総支配人を数多く誕生し、神戸をはじめ日本全体のホスピタリティ業界で、その知識と経験を生かし、活躍されています。

50年の歴史で培われてきた神戸YMCA学院専門学校の卒業生ネットワークは、ホテルや観光のホスピタリティ業界では強固なものです。

今年2月から、50周年記念会を行う実行委員会（グリーンヒルホテル神戸、ANAクラウンプラザホテル神戸、神戸ポートピアホテル、ラ・スイート神戸ハーバーランド、神戸ベイシェラトン ホテル＆タワーズ、登大路ホテルに勤務する卒業生が中心）が組織され、活発な議論がなされ、神戸YMCAホテル学科創立50周年記念祝賀会を行うこととなりました。

日 時：2014年10月21日（火）  
場 所：ANAクラウンプラザホテル神戸

祝賀会の詳細は、決まり次第、ホームページやfacebookを使い、お知らせしていきます。

一人でも多くの卒業生の方々に参加していただけるよう、実行委員会で考えています。

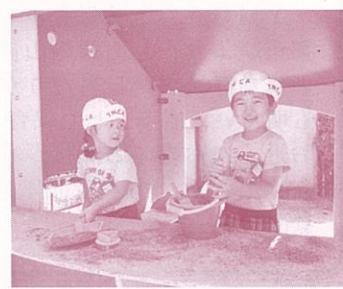


## 幼稚園



## 「新年度の始まり」

2014年度がいよいよ始まりました。神戸YMCAちとせ幼稚園では、園児136名と未就園2歳児クラス25人の計164名の子どもたちを迎えてスタートしました。未就園児2歳児クラスは今年度で3年目を迎えます。参加曜日は週2回以上の選択制ですが、個々のペースで参加曜日を増やしていくことができます。2013年度も初めは、週2回から始めた子どもも徐々に慣れ、2学期、3学期には、週3・4・5回と参加曜日も増えていきました。5月にクラスが始まると泣いている2歳児を見て、それまで1番小さかった年少児が「おかあさんに会いたいの？」「おねえちゃんがいるからね」と声をかけたり、涙を拭こうとティッシュをもってきててくれたり、ちいさなおにいさん、おねえさんたちが優しくしてくれました。毎年3月には体験入園があるのですが、幼稚園に慣れた未就園児が増えたことで、今回、とても落ち着いた体験入園の日でした。そんな子どもたちが、4月からは入園です。また新たなお友だちがやってきて、保育のなかでどんなドラマがはじまるのか、とても楽しみです。神様の見守りと導きのなかで、子どもたち一人ひとりがいきいきと過ごせることを願いながら、この一年も歩んでいきたいと思います。



## 保育園



西神戸YMCA保育園は、神戸市営地下鉄学園都市駅すぐのたくさんのテナントが入ったビルの1、2階にあります。その中の1つの老人ホームと開園以来ずっと交流を続けて5年になります。ゆり組さん（5歳児）クラスが年に2回交流をしています。

昨年の7月は園児が訪問し、自己紹介をしたあと「にじ」の歌を歌いました。そして一緒に七夕の飾りを作つて笹に飾りつけをして「七夕さま」の歌と一緒に歌いました。

そして、3月の卒園前に再び訪問。一緒に折り紙で切り紙を作つて模造紙に張り感謝を表しました。その後子どもたちは歌とお花のプレゼントをしました。毎年3月この機会に心のこもったお手製のお弁当袋を園児1人1人にくださいます。おじいさんとおばあさんの子ども達を見る優しい目が印象的でした。

毎年続いているご近所のおじいさんとおばさんとの交流。今後も地域の結びつきを大切に、子どもたちはいろいろな世代の見守りに支えられ大きく成長していくことを願っています。神様とともに。



## 感謝・寄付

西宮ワイズメンズクラブ（ファミリープログラム支援金として）

## I'm a Partner Camp

### Diversity という世界 — I'm a Partner スプリングキャンプ2014 —

昨夏に引き続き2回目の今回、中学生のジュニアリーダーも募集し、小学生33名（1名当日欠席）、中学生6名、大学生4名の計43名が福島から余島にやってきました。

そしてその周りには、本当に多くのボランティアが寄り添いました。神戸YMCAの大学生リーダーをはじめ、10名を超える高校生と福島の大学生、プログラムボランティアが出会い、チームを創っていきました。またそれを励ますように、ファンドレイザーやパートナーキャンプOBOGが、自分たちに何かできることはないだろうか。と余島にやってきました。画家の宮田保史さん、音楽家のロビン・ロイドさんはそれぞれのプログラムで「自然に勝る美しさは無い」と子どもたちに訴えました。桜が咲き誇る木の下で描いた水彩画、小鳥の囁りと合唱した自然物の楽器演奏会。一つ一つの場面が尊く、自然の牙に被災した人の心を癒やすようでした。

たった一つ「未来のために。今自分ができることは？」という間に集ったパートナーが時空を超え、ここ余島で繋がりました。

そんな世界観に囲まれた子どもたちは、みると元気を取り戻していました。そして春の陽気に包まれた余島で、一人ひとりが「リーダー」へと成長していました。最終日、カウンシルファイヤーの火を囲んで祈りました。「このキャンプで感じた喜びを、他のにも分け与えよう」と。そして「それぞれの場所で、それが、リーダーとして生きていこう」と。キャンプに触れた全員が、人を照らすリーダーに憧れ、未来への希望を持って過ごした5日間でした。

「明日の指導者は今日創られる」この伝統の言葉は、いつしかYMCAだけのものになっていました。しかし、このパートナーキャンプに象徴されるように、時代はオープンな繋がりを求めています。ふとした瞬間にこみ上げる涙をこらえながら、それでも笑顔でキャンプを過ごす子どもたちがいます。未熟な心で、福島の現実に向き合いながら、真剣に対峙する高校生がいます。死に物狂いで募金を呼びかけるファンドレイザーがいます。そしてそれをまとめ上げるために全力で進む大学生がいます。

今こそYMCAの正章に刻まれた聖句を思い起こし、東北の復興から日本の復興、世界人類の発展へと歩みを繋ぐ時が来たのです。現実は決して甘くありません。絶望的な現実に立ち向かう時、人は本当の夢を見るのだとある詩人が言いました。理想と現実のはざまで、多くを得たキャンプとなりました。

キャンプディレクター 阪田 晃一

～お支えをありがとうございました～

#### 【協賛・協力】

サントリーホールディングス（株）・よしましょ・学校法人啓明学院・生活協同組合コープこうべ・兵庫県ユニセフ協会・NPO法人ルワンダの教育を考える会、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部・（公財）日本YMCA同盟

## 標準服を導入しました：高等学院

神戸YMCA高等学院では、制服を持ちませんでした。ここに集まる生徒の多くは、どこかに生きづらさや学びづらさをかかえている者が少なくはありません。その結果、学校に行くことをやめてしまった生徒が、その学校の生徒であるという証のような制服に対して、少なからず抵抗感があるのではないかと考えていたからです。そこで、特に服装の規定を定めず、生徒自身が考え、保護者と相談して、登校時の服装を決めていたことと思われます。また、機能的な面や価格の面でも敬遠されるだろうと考え、「制服はありません」というスタンスを通しておりました。

しかし、毎朝、毎朝、今日は何を着ていこうかと考えるのは面倒だという声も聞こえてきたり、進路指導の面でも、入試の面接を受けに行くときにも「制服がないので何を着て行ったらいいのだろう」という相談も進学希望者が増えるに従い、相談されたりすることも多くなりました。登校している生徒をよく見ていくと、女子を中心にいわゆる「なんちゃって制服」で登校する生徒がだんだんと増えてきました。

そこで、2014年度から、全国にある「YMCA学院高等学校」に連なる10校の学校で、標準服を導入することになりました。これは、制服として強制するのではなく、これを希望する生徒が購入するというものです。ジャケット、ズボン、スカートのみの購入といった一部の購入や必要とするものの組み合わせでも構わないということにしました。

導入を決めてから、サンプルを展示していますが、評判はなかなか上々です。今まで、私服登校であった高等学院でしたが、この標準服で登校する生徒が増えれば、どんな雰囲気になるのかなと楽しめます。



## 2013年度国際協力募金感謝 見つめています ひとつひとつのいのち

2013年度神戸YMCA国際協力募金が2月末をもって終了いたしました。約338万円の净財が寄せられました。ご協力くださいました皆さん、心よりお礼申しあげます。この募金は神戸YMCAが行う国際協力、地域奉仕活動に、そして日本YMCA同盟を通して災害支援、難民支援等に用いさせていただきます。

(東日本大震災支援募金へは、別途、約624万円が寄せられました)

### ● YMCA国際協力募金は

世界の国と地域にひろがるYMCAのネットワークを通じて、すべての人々が国・民族・宗教のちがいを超えて、平和にいきいきと暮らすことが出来る社会をつくりだすための国際協力・地域奉仕活動に用いられています。



### ●ともに支えあう

19年前、私たちの地域は世界中の様々な人びとにより強く支えられ、困難な環境にありながらも大きく温かな力を経験しました。東日本大震災では、私たちが支えられたように、微力ではありますが寄り添うことを大切に活動を継続しています。支えられ支えるという互いの関わりが強められるよう、国際協力募金が用いられています。



### ●ひとりひとりを大切に

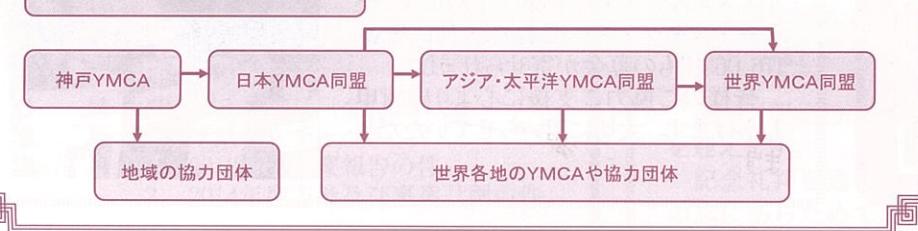
YMCAでは、人と人との出会いや交流から学び合い、豊かな体験を通して互いに理解することで心の成長を目指します。私たち一人ひとりが互いに关心を持ち、誰もがともに支えあえる、信頼できる関係であるよう、日々の活動に取り組んでいます。

### ●地域とともに

神戸YMCAは、「すべてのいのちが光り輝くように」という願いのもと、それぞれが与えられた地域で平和をつくりだすことができる人を育てる多くの出会いと学びの機会を提供しています。

多くの会員の皆さん、地域の他の関係者の皆さんとともに街頭募金活動や啓発活動にも努めてきました。皆さまのご協力とご理解に重ねて感謝申しあげます。

神戸YMCA国際協力募金の流れ



ソナタ  
奏鳴曲 No.63



総主事 水野雄二

## 「赤レンガの青年会館」の残り石

神戸YMCA三宮会館の玄関前の植え込みに「Y・M・C・A」と刻み込まれた石が置かれています。縦50cm、横230cm、堂々たる重さをもって鎮座している石板です。これは「Y・M・C・A」の文字と共に刻まれている「1921」が示すように、1921年に定礎式が行われ、翌年に完成した第2期神戸YMCA会館の玄関の上部に取り付けられていたものでした。

終戦直前の1945(昭和20)年6月5日、神戸に飛来したB29による大空襲によって神戸市の東半分が灰燼となった惨事の際、「赤レンガの青年会館」と神戸市民に愛された第2期会館も崩壊してしまいました。焼失した会館跡に、この石板だけが奇跡的にそのままの形で残ったと言われます。「あたかも『ここがYMCAなんだぞ!』と自らの存在を誇示するかのように…」と神戸YMCAの100年史は伝えています。

W.M.ヴォーリズによって設計され、体育館や大講堂を備えた近代的なこの第2期会館が完成したこの頃は、第1次世界大戦の大不況の時代で、神戸で川崎・三菱の労働争議が起り、賀川豊彦らが神戸YMCAで日本農民組合を結成した時期でした。そのような中、失業していた若者がこの新会館のロビーにゴロゴロしていたと言われています。以来、様々な若者の集う場としてのYMCA会館でしたが、戦災は無惨にも若者の集う場を奪っていました。

その後、戦後復興、高度経済成長、バブル崩壊と時代が移り、今年、神戸YMCAは第4期(現)会館を新たに建て替えようとしています。今もまた、若者が多くの課題を抱える時代です。赤レンガの青年会館の残石がYMCAの存在を今も示すように、多くの若者の道しるべとしてのYMCAでありたいと願います。「ここにYMCAがあるよ!」第5期の新会館の完成まで、しばらくの時が必要ですが、皆様の祈りと期待をお寄せくださるようお願いいたします。



「ボーコキのピース・ブック」  
ボーコキ、元気つて、なに色?  
Popoki, What Color is Genu??

ス・ブック シリーズ  
(文・絵 ロニー・アーレキサンダー)  
近くの書店、神戸YMCA国際奉仕センター、ボーコキ・ピース・プロジェクトから



ボーコキのピース・ブック  
2014年3月11日発行

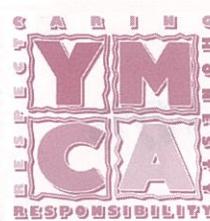
「ボーコキのピース・ブック」シリーズ  
(文・絵 ロニー・アーレキサンダー)  
近くの書店、神戸YMCA国際奉仕センター、ボーコキ・ピース・プロジェクトから

それらを追求するのではなく、ともに語り合い、たがいに興味を持つて関わりあう、そこから平和を紡ぎだすことができると思います。有名な言葉でいえば、「Think globally, Act locally」(世界規模で考え、身近な地域で活動する)があります。世界119の国と地域にあるYMCAでは、世界を見つめ、地域に根ざし、かけがえのないのちと平和のために、日々活動を行っています。

私たち、なにが正解で、なにが正解でないのか、つひとつといのちの大切さは同じです。私たち、なにが正解で、なにが正解でないのか、それらを追求するのではなく、ともに語り合い、たがいに興味を持つて関わりあう、そこから平和を紡ぎだすことができると思います。有名な言葉でいえば、「Think globally, Act locally」(世界規模で考え、身近な地域で活動する)があります。世界119の国と地域にあるYMCAでは、世界を見つめ、地域に根ざし、かけがえのないのちと平和のために、日々活動を行っています。

神戸YMCAは、「すべてのいのちが光り輝くように」という願いのもと、それぞれが与えられた地域で平和をつくりだすことができる人が育つように、たくさんの仲間が集い、活動しています。仲間に何かに、ボーコキがいます。「ボーコキ」はハワイ語で「ねこ」のことです。ボーコキは、「平和って何だろう。一緒に考えてみよう。」つと、いつも私たちにいろいろなことを語りかけてくれます。私たちはボーコキに会いたくなつた時は、そつと「ボーコキのピース・ブック」シリーズを手にします。シリーズはこれまでに3冊、「ボーコキ、平和つなに色?」(2007年)、「ボーコキ、友情つなに色?」(2009年)、「ボーコキ、元気つなに色?」(2014年)が発行されています。ボーコキは、私たちの生活中で、人間だけではなく、動物や植物、魚、昆虫、生きるものすべてのこどつについて、考えることを教えてくれます。今回も学生、社会人、ユース、シニア、いろいろな人たち約20名が集まりました。映画を観て、小グループで意見交換し合い、また映画を観る。そして意見交換して、と、いくつかの映画を観た後、全員で振り返りをしました。今回のテーマは、「戦争を知る、基地を知る、知らない日本を知る」でした。今春、2月22日(土)、ボーコキ・ピース・プロジェクト、神戸YWCA、神戸YMCA3者主催で「第3回ボーコキのミニ平和映画祭」を実施しました。今回も学生、社会人、ユース、シニア、いろいろな人たち約20名が集まりました。映画を観て、小さく、動物や植物、魚、昆虫、生きるものすべてのこどつについて、考えることを教えてくれます。

ウェルネスセンター三宮 ☎078(241)7202  
 YMCAホームヘルパーの事務所 ☎078(241)7237  
 ランゲージセンター ☎078(241)7204  
 専門学校 ☎078(241)7203  
 西宮YMCA ☎0798(35)5987  
 三田YMCA ☎079(559)0075  
 余島野外活動センター ☎0879(62)2241  
 國際・奉仕センター ☎078(241)7204  
 ウエルネスセンター学園都市 ☎078(793)7401



## Information

夏休み!  
主役は君だ!!

### 神戸YMCAの夏は冒険がいっぱい! 日帰りから11泊まで自分に合った冒険を選ぼう♪

キャンプではこどもたちが“自分でやってみる”そのことを大切にしています。自分を信じ、待ってくれているリーダー。応援してくれる仲間。キャンプでは一人ではなく、自分と仲間とリーダーと、そして雄大な自然がすぐそばにあることに気が付きます。一人ではなく生かされていることに気が付くと周りへの感謝の気持ちが湧き出でます。「ありがとう」キャンプの中で一番よく聞く言葉です。子どもたちは長いキャンプになるほど、本来の素晴らしい自分の姿に出会えることでしょう。子どもたちの“いのち”が光り輝くことを願い、私たちはキャンプを続けています。



先行WEB受付  
5/9スタート!!  
<http://www.kobeymca.org/natsu/>

西神戸YMCA ☎078(793)7402  
 西神南YMCA ☎078(993)1560  
 須磨YMCA ☎078(734)0183  
 YMCA保育園 ☎078(794)3901  
 西宮YMCA保育園 ☎0798(35)5992  
 西神戸YMCA保育園 ☎078(792)1011  
 YMCAちとせ幼稚園 ☎078(732)3542  
 西神戸YMCA幼稚園 ☎078(997)7705  
 西宮つがわYMCA保育園 ☎0798(26)1016

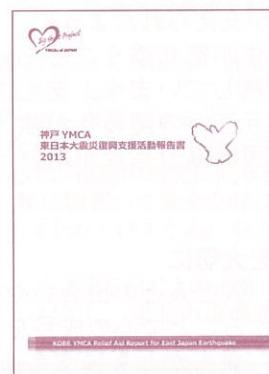
### ●●● 報告書ができました ●●● 東日本大震災復興支援活動

東日本大震災発生から3年が経過するなか、神戸YMCAでは多くのボランティアによって復興支援活動が継続されています。

このたび、2013年度の活動をまとめた報告書を作成いたしました。神戸YMCAのホームページにも掲載いたしますので、ご覧いただければ幸いです。

2014年度も必要とされる声を聴き、皆さんとともに支援活動を力強く進めてまいりたいと思います。

皆さまのご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。



[www.kobeymca.org/east\\_japan/2013report\\_east\\_japan.pdf](http://www.kobeymca.org/east_japan/2013report_east_japan.pdf)

### 新拠点 ファミリーウエルネスセンター

開設準備室もOPENし、地域の方々がやってきています。『いつから?』『うちの子どもは何がええやろ?』『プールあるの?』など、期待を感じることができます。人に会うことで、街の匂いがする、そんなYMCAに一歩ずつ近づいている毎日です。



### 東日本大震災復興支援募金活動

3月21日(祝) 神戸元町、神戸学園都市、西宮夙川、三田の4カ所で、啓明学院の高校生、三田YMCA FC、ワイズメンズクラブ六甲部、YMCAリーダー・スタッフのべ92名の活動に総計176,063円もの募金が寄せられました。

皆様のご協力ご支援に心より感謝申しあげます。大切に用いさせていただきます。



### 東日本大震災復興支援活動 リフレッシュファミリーキャンプ

3月8日(土)～9日(日) 被災家族を対象としたリフレッシュファミリーキャンプを、六甲山YMCAで実施しました。雪の降る山の上で、家族間の交流やボランティアリーダーとの再会など思い思いの時を過ごされました。



### カレッジが新神戸に移転

神戸YMCAカレッジ(専門学校、ランゲージセンター、国際・奉仕センター)が4月1日、新神戸オリエンタルアベニュー2階に移転しました。4月9日に専門学校入学式を行い、新年度をスタートさせました。



### 希望の凧 in 宝塚

2014年3月11日、あの日から3年。今でも忘れない思いをつなげようと「希望の凧 in 宝塚」を、はんしん自立の家、武庫川がっことうとの共催のもと実施しました。近隣の福祉施設の方を中心に100名ほどが思いと祈りを空に掲げました。



### ★★ 個人消息 ★★

【お誕生日】おめでとうございます。 3月25日 山本亮司さん(余島野外活動センター) 第二子